

野菜

異常天候早期警戒情報が4月27日に新潟地方気象台から発表され、5月2日頃からの1週間は気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれるため、農作物の管理に十分注意する。

実況…(27年4月20日現在)

1 施設野菜

果菜類

(1) トマト

若狭地区は、2月下旬定植が3～4段果房が開花期、早いもので1段果房がS玉程度の肥大となっている。福井地区では、2月下旬定植で2段果房が開花終期となっている。南越地区のRW栽培は、第5～6段果房が開花期となっており、他の栽培では3段果房が開花期となっている。

灰色かび病が微～少発である。

(2) ミディトマト

福井、南越地区の3月中旬定植が2～3段果房で開花期となっている。坂井地区では、3月上旬～中旬にかけて順次定植が行われた。生育の早いところでは、3段果房が開花期となっている。若狭地区では、3月30日にセル苗の配布が行われ育苗中である。鉢苗定植で草丈40cm、1段果房が開花始めとなっている。奥越地区では、4月16日から苗配布が行われ定植開始となっている。

若狭地区の促成長期どり栽培は、24～26段果房が開花期となっている。小果と着色遅延により収穫量はやや減少傾向になっている。

葉かび病、灰色かびが一部中発、コナジラミ類が微発である。

(3) キュウリ

若狭地区は、2月下旬定植が4月初旬から主枝を収穫中である。福井地区では、3月中旬に定植したものが4月10日頃から収穫開始となっている。丹生地区では、3月27日定植開始で本葉8枚になっている。

灰色かび病、うどんこ病が少発、つる枯病が一部中発である。

(4) スイカ

坂井北部丘陵地は、3月中旬から定植開始となった。全般に低温、日照不足の影響で生育は停滞気味、生育の早いもので16節前後となっている。三里浜砂丘地では、一部で開花始め(17～18節前後)になっている。全体的に生育量が小さく、葉長、茎径ともに小さめの傾向となっている。

(5) メロン

坂井北部丘陵地では、プリンスメロンが3月18日から定植開始され、活着は良好であるがその後の生育はやや弱く、開花は前年度よりやや遅い4月17日からとなっている。アンデスメロンは、3月24日から定植開始された。

アールスメロンは、坂井北部丘陵地で3月25日から、三里浜砂丘地では4月12日から定植された。

マルセイユメロンは、坂井北部丘陵地で3月20日から定植開始で4月15日から開花期となっている。南越地区では3月31日から定植され、低温と日照不足により生育が4～5日遅れている。

(6)イチゴ

福井、丹生地区は3番果房が収穫中となっている。南越地区では4番果が収穫中で終盤となっている。坂井地区では開花ほぼ終了し、5月下旬まで収穫の予定である。

うどんこ病、灰色かび病が微発、アブラムシ類が一部多発、ハダニ類が少発である。

葉根菜類

(1)軟弱野菜

福井地区は、2月下旬播種のハウレンソウを約50日で収穫中となっている。

ハウレンソウケナガコナダニが微発である。

(2)ダイコン

三里浜砂丘地は、2月14日から播種が行われている。5月5日頃出荷予定である。

(3)アスパラガス

26年度に定植した株が4月上旬から(雨よけ栽培4月13日)から収穫開始となった。

2 露地野菜

果菜類

(1)ピーマン

丹生地区は、4月27日から定植予定となっている。

(2)スイカ

三里浜砂丘地は4月5日から、坂井北部丘陵地では4月15日から定植開始となっている。低温と日照不足の影響で初期生育は緩慢で本葉3～4枚、草勢やや弱く子づるの伸びは悪い。南越地区では、3月中旬播種で現在育苗中、4月下旬～5月上旬に定植予定となっている。

(3)ナス

奥越地区は、4月16日から苗が配布され、圃場準備のできたところは16日から定植開始となっているが、天候不順の影響で圃場準備ができず4月下旬まで定植が遅れる見込みである。

(4)カボチャ

坂井北部丘陵地のトンネル栽培は、4月9日から定植開始となり、本葉4～5枚で子づるの発生初期となっている。

(5)一寸ソラマメ

若狭地区は、生育の早い圃場で分枝長80cmになっており、8段目まで開花、4段芽まで着莢となっている。全体として莢の肥大が遅い。坂井地区では、生育の早い圃場で分枝長75cm、5～6段目開花中で平年並みの生育となっている。

赤色斑点病が微発で、一部で多発している。

(6)スイートコーン

福井地区は、清水地区が3月30日、永平寺町が4月5日から播種が行われ育苗中である。4月20日から定植開始予定である。

葉菜類

(1)ブロッコリー

定植が福井地区は3月25日から、南越地区では3月27日から開始された。本葉6～7枚になっている。若狭地区では4月初旬から順次定植され、早いもので本葉4.5～6枚になっている。低温の影響も見られるが概ね活着は良好である。

(2)ネギ

越冬どりは、奥越地区で葉長50～55cm、葉鞘径17～18mm、本葉が2.5～3枚と昨年と比べるとやや細く生育は全体的に遅れている。福井地区では葉鞘径20～30mm、軟白長20cmになっている。

秋冬どりの定植は、奥越地区では自家育苗が3月末から、購入苗が4月2日から、福井地区では3月30日から、若狭・坂井地区では4月上旬から順次開始されている。しかし、天候不順続きにより圃場準備が遅れており、全体的には10日～2週間遅れの4月25日から定植ピークとなっている。

越冬ネギでハモグリバエ類が一部少発である。

(3) 勝山ミズナ

市場出荷は4月13日で終了した。

(4) キャベツ

坂井北部丘陵地は、昨年9月定植の秋冬キャベツを継続収穫中である。初夏どりでは坂井北部丘陵地の10月下旬定植が結球中期で、水田転換畑の10月下旬定植が葉数15枚で結球初め、11月定植が葉数13枚で結球前となっている。

アオムシが微発である。

根菜類他

(1) ダイコン

三里浜砂丘地は3月9日から播種開始されており、4月23日からトンネル除去開始された。生育は平年に比べ2～3日遅れている。

(2) ニンジン

三里浜砂丘地は、トンネル栽培が3月6日播種の生育の早いもので本葉3～4枚、3月下旬から4月初旬播種が本葉出始めとなっている。トンネル除去は4月22日～末にかけて実施の予定。

(3) カンショ

種イモ伏せ込みは3月下旬から開始されており、4月末から定植予定である。

(4) サトイモ

奥越地区の定植は早いところで3月末から開始されたが、天候不順が続き圃場準備が遅れている。全体的には4月25日からとなっており、昨年より2週間ほど遅れている。

(5) タマネギ

福井地区は、草丈45～50cm、生葉数4.5枚、球径16mmとなっており、平年より球の肥大は遅れている。坂井地区では、草丈25～30cm、生葉数3～4枚、球径8～9mmとなっている。

葉枯れ病が一部微発である。

(6) ニンニク

福井地区は、草丈55cm、生葉数5.5枚となっており平年並みの生育となっている。さび病が微発である。

対 策

5月は日射量も多くなるとともに、温度の日較差も大きい。特に、晴天日はハウス内が高温になるため、ハウス換気に留意し高温障害等の発生を防止するとともに、野菜の生育に合った養水管理を行う。また、病害虫については発生前または初期の防除に努めるとともに病害虫の拡大を防ぐ。

1 施設野菜

ハウスの保温や換気について、過去の経験から5月から6月にかけて周期的に寒気が南下し低温に遭遇する日もあるので天気の変化には十分注意すること。

果菜類

(1) トマト

気温の上昇とともに開花間隔が短縮し、着果肥大に伴って作物体への負担が急激に大きくなり草勢が低下しやすくなる。このことから、草勢を見ながら摘果、わき芽除去、追肥、かん水を適宜に行なう。また、茎葉が伸び繁茂してくると葉かび病、灰色かび病も発生しやすくなるので、ハウス内の過湿を避けるとともに、必要に応じて薬剤での防除に努める。

(2) ミディトマト

半促成栽培では5段果房開花頃から節水管理をして糖度の上昇を促進するが、頂部先端葉が萎れるような極端な節水は、上段果房の着果不良や尻腐果の発生を誘因するため避ける。また、ホルモン処理をする場合、茎葉部への飛散は葉を奇形化させ生産力を低下させるので注意する。うどんこ病等の病害が見られたら早期防除に努める。

(3) キュウリ

中段の側枝発生が悪くなって収量が減少しないよう曲がり果等を早めに摘除するとともに、積極的に追肥、かん水を行う。

(4) スイカ

18～20節が雌花の開花と着果時期となるので、着果安定と果実肥大促進のため次のことに留意する。ハウス内温度を開花2～3日前から開花後2週間程度は、日中30℃前後を目標に管理し、夕方はハウスを早めに閉め、夜温16℃、地温20℃を目標に保温する。また、着果まではかん水を控え、過繁茂を防止する。着果を確認できしだい早めにかん水量を多くして肥効を高める。つる枯れ病、アブラムシ等に対しては早期防除が重要であるが、着果期のミツバチ導入を考慮して薬剤を選定する。

(5) メロン

プリンスメロンは5月末から収穫期に入るので、草勢が低下しない程度にかん水を行う。ネットメロンは5月上旬から着果期に入るので、交配期は夜間の保温に努める。また、着果が確認できたら、かん水量を多くして肥効を高めて果実肥大を促すとともに、果実形状の良いものを残しその他を摘果する。マルセイユメロンは1株あたり5～6果程度になるように、着果位置を揃えて摘果する。

軟弱野菜

(1) ホウレンソウ

温度の上昇によって急激に生育が進むため、収穫遅れにならないよう留意する。

2 露地野菜

晴天が続く、圃場の乾燥が続くと肥大不足や（カルシウム欠乏などの）生理障害が発生しやすくなるので、適宜かん水を行う。

果菜類

(1) スイカ

定植後10～15日間の密閉期間を過ぎたら徐々に換気を始めて茎葉の充実を促す。なお、晴天日に不十分な換気や土壌水分の不足は、トンネル内温度が著しく高くなり、また、葉焼けの発生や雌花の着生や充実を悪くするので、35℃以上の高温にならないように換気する。また、トンネル除去は定植後40日頃を目安に行うが、寒気による低

温が予想される場合は延期する等、天候の変化に留意しながら行う。

(2) ナス、ピーマン

定植は、地温15～16℃の確保を目安に暖かい日を選んで行なう。ナスは本葉7～8枚、ピーマンは本葉12～13枚の1番果開花始め頃の苗が定植適期である。梅雨から盛夏を越えて秋まで長期間栽培する場合、根群の健全化、維持を図ることが重要となる。定植前の排水対策を徹底するとともに、堆肥などの有機物資材の積極的な施用や深耕による土づくりを十分に行っておく。

(3) 一寸ソラマメ

莢肥大盛期になるので早めに追肥を行い、土壤水分を確保して莢の肥大を促す。

葉菜類

(1) キャベツ

早生品種では5月末頃から収穫期となるため、収穫遅れにならぬよう適期収穫に努める。

(2) ネギ

定植後の追肥・土入れ作業は苗の生育と天候を見ながら早めに行う。ただし、土入れは、分岐部の下あたりまでとする。一度に多くの土を寄せすぎると生育不良や軟腐病等の原因になるので注意する。また、粒剤散布（軟腐病対策）は梅雨入り前までに行う。植溝の雑草については、初期除草剤の薬効が切れたころから発生してくるので、雑草の発生を確認したら、早めに三角鋤等で手取りする。

根菜類

(1) ダイコン

本葉20枚頃（根部肥大開始）からは高温に弱くなるので、トンネル換気を十分に行う。

(2) タマネギ、ニンニク、ラッキョウ

肥大盛期になるので土壤水分が不足しないよう留意し、圃場の乾燥が続く場合は、必要に応じてかん水を行う。ただし、収穫間際のかん水は裂皮等の原因になるので行わない。温度が上昇するこれからの追肥は、葉を徒長させるのみで球の肥大に対する効果は少ない。ただし、ラッキョウの場合、極端な生育不良が見られる場合には追肥を行なう。